

A区分・C区分共通  
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和6年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	演劇	種目	演劇
----	----	----	----

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分
------	-----

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	無	申請総企画数	
---------	---	--------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	ユウゲンガイシャゲキダントマトザ		団体ウェブサイトURL
	有限会社劇団トマト座		<a href="https://tomatoza.jp/">https://tomatoza.jp/</a>
代表者職・氏名	代表取締役 伊東智恵美		
制作団体所在地	〒 187-0001	最寄り駅(バス停)	ガスマuseum入口
	東京都小平市大沼町4-33-10		
電話番号			
ふりがな 公演団体名	ゲキダントマトザ		団体ウェブサイトURL
	劇団トマト座		<a href="https://tomatoza.jp/">https://tomatoza.jp/</a>
代表者職・氏名	代表取締役 伊東智恵美		
公演団体所在地	〒 制作団体に同じ	最寄り駅(バス停)	制作団体に同じ
	制作団体に同じ		
制作団体 設立年月	平成元年2月		
制作団体組織	役職員		団体構成員及び加入条件等
	代表取締役 伊東智恵美 取締役 伊東孝則		社員1名 パート2名 劇団員14人
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	他の業務と兼任の担当者 を置く	本事業担当者名	伊東智恵美
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者名	伊東智恵美
本申請にかかる連絡先 (メールアドレス)	<a href="mailto:info@tomatoza.jp">info@tomatoza.jp</a>		

<p><b>制作団体沿革</b></p>	<p>平成 1年 法人化(有)劇団トマト座設立 代表取締役 水内壽子 「子象物語」初演 平成 2年 日本児童青少年演劇劇団協同組合加盟、全児童加盟 平成 3年 「白雪姫と七人のこびと」初演 平成 5年 「オズの魔法使い」初演 平成 6年 東京都フェスティバル参加、児童協同組合公演「グリム」だん脚本 平成 9年 「グランド・マイン」一般対象創造劇 初演 平成10年 「今は涙…」「銀河鉄道の夜」初演、高等学校巡回公演開始 平成12年 「冒険西遊記」初演 平成17年 「ピノッキオの冒険」初演 平成21年 「躍るごんぎつね」初演 平成25年 「ひめゆり」初演 平成30年 代表取締役 伊東智恵美、就任 令和 1年 新社屋完成 小平市に移転 令和 2年 新作「ミクロの三銃士」制作 令和 3年 「ミクロの三銃士」府中の森芸術劇場にて自主公演 令和 5年 舞台芸術等総合支援事業 学校巡回公演 「子象物語」</p>		
<p><b>学校等における 公演実績</b></p>	<p>平成元年より学校公演実績あり。 累計 約6000公演</p> <p>直近 全国公演</p> <p>平成30年 188日間(子象物語、オズの魔法使い冒険西遊記、ピノッキオの冒険、ひめゆり) 令和元年 135日間(子象物語、オズの魔法使い冒険西遊記、ピノッキオの冒険、ひめゆり) 令和2年 16日間(子象物語、オズの魔法使い冒険西遊記、ひめゆり) 令和3年 54日間(子象物語、オズの魔法使い、冒険西遊記、ミクロの三銃士) 令和4年 61日間(子象物語、オズの魔法使い、ミクロの三銃士)</p>		
<p><b>特別支援学校等 における公演実績</b></p>	<p>平成18年 高知若草養護学校「ピノッキオの冒険」 平成21年 足立区養護学級(複数校集まりホールにて)「オズの魔法使い」 平成29年 新宿養護学校「オズの魔法使い」 平成30年 新宿養護学校「冒険西遊記」 令和3年 新宿養護学校「オズの魔法使い」</p>		
<p><b>参考資料の有無</b></p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>無</p>	
	<p>※公開資料有の場合URL</p>		
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID:</p>	
		<p>PW:</p>	

## 公演・ワークショップの内容

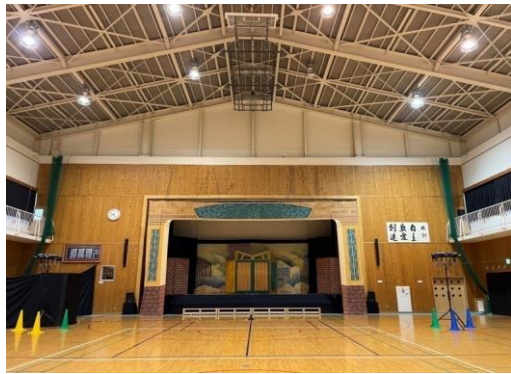
【公演団体名 劇団トマト座】

対象	小学生(低学年)	○	/	
	小学生(中学年)	○		
	小学生(高学年)	○		
	中学生	○		
企画名	劇「子象物語」			
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	「子象物語」 「トンキーよ永遠に」 原作:「上野動物園史」よりc 脚本/演出:だんいっせい 音楽/盛田裕之 <p style="text-align: right;">公演時間 80 分</p>			
著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当あり	該当コンテンツ名	演目の上演
	該当事項がある場合 権利者名	水内 壽子	許諾確認状況	使用(上演)許諾取付済
演目概要	太平洋戦争時、上野動物園の猛獣を処分せよとの命令が届きます。象のトンキーは毒入りの餌も食わず注射も効きません。しかたなく餓死させることになります。史実をもとにトンキーと飼育係の三吉さんとの交流を描いた作品です。			
演目選択理由	劇団創設以来34年以に渡り数千回上演してきました。令和になった現在でも大変好評を得ている作品です。象という一つの小さな命を通して、平和の尊さ、そして命の重さを感じてほしいという願いを込めてこの作品を創りました。多くの児童、生徒の皆さんに観て頂きたいです。			
児童・生徒の共演、参加又は体験の形態	第一幕の冒頭、動物園に来た子どもたちで出演してもらいます。第一幕ラスト子供役の役者がトンキーの歌をうたうシーンがあります。数名の児童さんに舞台上上がってもらい、一緒に歌ってトンキーとの交流をします。第二幕ラストも、役者ととも舞台上でトンキーの歌を歌い、エンディングの挨拶まで役者と同様に行います。			
出演者	伊東孝則・一石よしふみ・友祐城・矢口玲於・野田あゆみ・杉浦澤香・			
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含 む	出演者: 6 名 スタッフ: 3 名 合 計: 9 名	運搬	積載量: 5 t 車 長: 6.35 m 台 数: 1 台	

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	無	前日仕込み所要時間		時間程度	
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	7時	7時～10時	10時半～11時50分	10分	12時～13時20分	13時30分
	※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。					

本公演 実施可能日数目安  ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月	
	10日	10日	0日	5日	5日	
	11月	12月	1月	計	55日	
	5日	10日	10日			
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。					

児童・生徒の 参加可能人数	本公演	共演人数目安	15人
		鑑賞人数目安	～500人



公演に係るビジュアルイメージ  
(舞台の規模や演出がわかる写真)

※採択決定後、図面等の提出をお願いします。

【公演団体名 劇団トマト座 】

児童・生徒の 参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	500名
ワークショップ 実施形態及び内容	<p>標準90分</p> <p>★第一部と第二部に分けて行います。</p> <p>①第一部 児童・生徒さん全員を対象に行います。 ・演劇の基本である声の出し方、呼吸の仕方、滑舌の練習などを一緒に体験してもらいます。 ・次に二人一組または数人で一組担って仲間同士で行うことの楽しさ、演じることの面白さを体験できるエチュードを行います。 例1:二人一組、一人が鏡になって相手の動きを真似る 例2:三人組になり作ってもらった食事を食べたあと、本当に「おいしい」という人、美味しくないけど気を使って「おいしい」と言った人を当ててもらおうなど。</p> <p>②第二部 共演する児童・生徒さんを対象に ・トンキーの歌を練習して、役者と一緒に歌います。 ・本番同様の動きを確認して実際に動いてもらいます。</p>		
ワークショップの ねらい	<p>・俳優が常に行っている基本訓練を楽しく行うことで、お芝居に対する抵抗を少なくして学んでいただけます。</p> <p>・二人一組や数人で行うことで、演劇というジャンルへの興味はもとより、普段の生活においても他者とのコミュニケーションを楽しむことを実感してもらいます。</p>		
その他ワークショップに 関する特記事項等	<p>事前に「優しいトンキー」の歌詞と楽譜を送ります(事前練習は必要ありません)</p>		

本事業への申請理由

【公演団体名

劇団トマト座

】

## ①本事業に対する取り組み姿勢

私達はこの事業を通して、生きとし生けるものの生命の輝き、家族や故郷を思う心など、本当に大切にしたいメッセージを伝えます。さらに他者とのコミュニケーションを通してのワークショップと掛け合わせることで、「どうやって伝わる表現にしていくか」を発想するきっかけを作り、「役者やスタッフが協力し合うことで生まれる舞台表現の面白さ」を知ることで「自分たちも作ってみたい」「他の作品も観てみたい」と探究心の芽を育てていきたいと考えています。

本事業に対する  
取り組み姿勢、および  
効果的かつ円滑に実施  
するための工夫

## ②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫

事前に書面で実施要綱、舞台図面を送付します。また本番で実際に児童に参加してもらうと歌の楽譜も送付します。  
ワークショップ当日までに電話にて、先生とどのような形で行うかの綿密な打ち合わせをし、当日に先生方の不安が無いようにしていきます。

具体的には、

- ・ワークショップ当日までにしてほしいこと
- ・練習の順番をどうするか
- ・どのような時間配分で行うか

上記その他を話し合ってからワークショップを実施します。  
ワークショップのあとは当日までに練習してほしいことを先生に伝えます。  
また、当日本番で舞台をどのような形で使うのか児童の出入りなどを説明します。

公演当日は、実際に出演する生徒さんに本番前にリハーサルの時間をとり、本番と同じような形で舞台上がってもらいます。当然、初めての体験だという児童ばかりでしょうから、練習は何度か繰り返し、戸惑うことのないよう万全の準備をしてから本番をむかえます。